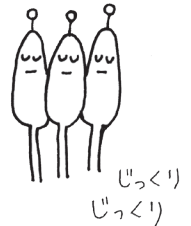




特集

定期大会で今後のことを決めることができなかつたので、  
8月の臨時総会までに話し合つてACW2の組織を変えるよ



もくじ

- |   |                                     |
|---|-------------------------------------|
| 02   第15回はたらく女性の全国センター定期大会報告                | 16   定期大会の感想。。。                     |
| 03   はたらく女性の全国センターの課題を踏まえての提案—米国・韓国の事例を参考に— | 17   「官製ワーキングプアの女性たちコロナ後のリアル」緊急集会報告 |
| 09   働く女性の全国ホットライン2020年 報告                  | 18   会員交流ページ わたしの人生表                |
| 11   会員状況アンケート報告                            | 19   一万年生きた子ども                      |
| 12   マイストーリー                                | 20   編集後記                           |

## 第15回はたらく女性の全国センター 定期大会報告

# 定期大会から、8月の臨時総会へ向けて

2021年2月27日、第15回定期大会をZOOMにて開催し、39名の方が参加しました。

大会の第1部では、ACW2が発足してから15年の活動を労働環境の変化とともに振り返り、現状と課題を共有し、第2部でACW2との関わりとこれからのことを話し合いました。発表してくださった方、総会と合わせて参加してくださった方、ありがとうございました。その一部をこのページの後に掲載します。

定期大会プログラム

2021年2月27日(土)

### 第1部 ACW2 15年の振り返りと現状、そして課題

- ・はたらく女性の全国センター 15年を振り返る(伊藤みどり)
- ・現在の状況(小園弥生) + 今後の課題(小谷幸・金美珍)

### 第2部 ACW2の今後を考える

- ・マイストーリー 4名(ACW2にたどり着いたきっかけ、ACW2に今後期待するもの)
- ・グループセッション(ACW2で自分がやりたいこと&できることを考える)

総会

第15回はたらく女性の全国センター(ACW2)定期大会資料 ※下記のURL先から見れます

<http://wwt.acw2.org/?p=5318>

- はたらく女性の全国センター 15年を振り返る
- ACW215年年表
- ACW2の運営 現状と課題
- グループワーク参加者用資料
- はたらく女性のホットライン
- 第14期活動/項目別
- 最終版会員アンケートまとめ  
(2021年2月13日現在63人回答)

定期大会では、ACW2の厳しい現状をふまえ、支えあう活動を続けていくために、互いの関係を構築し、組織の形態を大きく変えて必要性があることを共有しましたが、どのように変えていくかを決めることはできませんでした。そこで8月に臨時総会を開催することにし、それまでにオープンミーティング(拡大運営委員会)を開催して話し合いを重ねます。あなたの力が必要です。参加したい方は [office@acw2.org](mailto:office@acw2.org) までメールをください。

**臨時総会 | 2021年8月7日(土) 14時～ zoom 開催**

# はたらく女性の全国センターの課題を踏まえての提案—米国・韓国の事例を参考に—

小谷 幸(会員:米国の事例から)・金 美珍(運営委員:韓国の事例から)

総会における私たちの役割は、伊藤さん、小園さんの報告を受け、はたらく女性の全国センターの課題を整理した上で、米国や韓国の事例から提案を試み、後のグループセッションの参考にしてもらうことでした。

かもし合い



## ACW2の3つの主要な活動

課題をまとめる前の段階として、まず私たちは、運営委員との話し合いに基づき、ACW2の主要な活動を以下3つの流れとしてまとめました(下資料の3つの円を見てください)。

まず、1. 相談(ホットライン)活動を通じてACW2に出会う人たちが、2. かもすワークショップや相談員トレーニング、小グループ活動を通じて相互にエンパワー(少しずつ元気になり力をつける)し合う、3. その中で今度は相談を受ける側に回ったり、相談内容を構造的な問題として見える化し提言したりする、という流れです。いずれもACW2の大事な活動です。

4つの課題の関係	ACW2が直面する4つの課題
<p>ACW2の3つの主要な活動</p> <p>1. 相談(ホットライン)活動</p> <p>2. エンパワー活動</p> <p>3. 後援 支援活動</p> <p>課題1. 活動ビジョンの再確認</p> <p>課題2. 活動を支える組織・運営</p> <p>課題3. 持続可能な活動を支える会計・財務</p> <p>課題4. 多様な人々の参加のために</p>	<p>そして、この大事な活動を続けていくにあたり、ACW2が直面している課題を以下の4つにまとめました。(資料の4つの吹き出し、3つの矢印を見てください)</p> <p>活動を続けていく上でビジョンを再度確認する必要があること(課題1)、そのビジョンに合わせた組織・運営(課題2)、活動を支える会計・財務(課題3)、活動を担う多様な人々の参加(課題4)が大切であると考えました。以下、一つずつ説明していきます。</p>

## 課題1. 活動ビジョンの再確認

私たちは、ACW2が今後何をしていくのか、何ができるのか、社会的な役割をあらためて明確化する必要があると考えました。そもそも15年前、2005年のACW2設立時の理念は、労働組合との接点が少ない・ない・既存の労働組合が対応しない非正規・非雇用の働き方の増

加を受け、その労働・生活問題の受け皿として、との思いを込めたものでした。

しかし、再生産労働・ケア労働の過小評価と収奪（無償で、もしくは再生産できない賃金で女性、特に移民女性に担わせる）が進む中、ACW2 はあらたに賃労働の「働く」のみならず、再生産労働・ケア労働をも含む「はたらく」全体を考える「100年ビジョン」をつくりました。

これからも ACW2 は資本主義、特に新自由主義の性差別的搾取構造（女性のはたらきを無償化・過小評価する構造）自体を鋭く問う場として、「100年ビジョン」をより具体的に中期ビジョンや日頃の活動に反映させる必要があると思っています。

## 課題1. を踏まえた提案:米国や韓国の例に基づく事業の提案

中期ビジョンを見直すとともに、ACW2 のような労働 NGO との類似点が指摘される米国のワーカーセンター（労働者センター）と韓国女性労働者会（KWWA）の活動内容も参考にしつつ、ACW2 の3つの活動に沿った事業の提案をしました（上の資料）。

### 課題1 を踏まえた提案

女性労働のプラットフォーム化

1. 相談（ホットライン）活動
  - ・ホットライン活動の広報・宣伝
  - ・ホットライン活動の15年のアウトカムを出す
  - ・相談員トレーニング養成の検証
  - ・コロナ禍の相談状況のプレスリリース→3. 権利擁護・政策提言へ
2. エンパワーメント活動
  - ・かちずワークショップ教材の増補
  - ・小グループ活動のさらなる充実
  - ・生活のささえ合い事業（情報提供・食支援・就職支援・仕事おこし・協同組合 コロナ禍でさらに重要性を増している！）
3. 権利擁護活動
  - ・集まった声を挙げ、問題の可視化・改善・解決につなげる
  - ・多団体との連携、連携によるキャンペーン
  - ・在宅を前提とした活動づくり（例：コンテンツ配信・音声配信・当事者の声配信）

政策キャンペーン？

優先順位含め臨時総会で提案予定です。会員の皆さんも是非この後の話し合いでどのビジョンや活動が重要か、また、新たに必要なビジョンや活動について提案してください。みんなで検討しましょう～！

また、SNS を通じて日常のコミュニケーションをこなす若者が ACW2 に関心を持ち、活動に参加しやすくするため、インターネット・プラットフォームを構築していくことを提案しました。実際、韓国の女性労働者会（KWWA）や青年ユニオンは、2010年代からポッドキャストというインターネット・ラジオ番組を制作しています。ポッドキャストで、新たな運動活動を紹介したり、全国各地の遠く離れている会員同士の日常を共有したり、近年起きている労働現場の問題を直接伝えるなどの取り組みを続けてきています。全国から参加する会員が多い ACW2 ならではの、新たな取り組みが必要になると思います。

## 課題2. 活動を支える組織体制と運営

ACW2 は大変大切な活動をしているにもかかわらず、そのほとんどが無償労働によって担

われています。社会で女性の仕事、女性の活動は過小評価されがちですが、同じことがACW2の中でも起きていると私たちは考えました。ACW2は社会にとって本当に大事な活動をしています。まずは自分たちの活動から評価とリスペクトをしていきたいです。

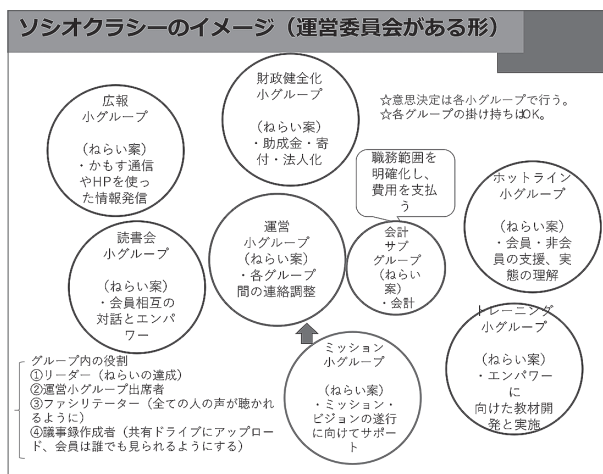
たとえば米国では、会議・ワークショップの最後に互いの良かったところを具体的に言語化して感謝する時間があります。

大事な活動のほとんどが無償労働であることも、感謝やリスペクトを持ちにくい要因、活動に参加しにくい要因となっているのではないのでしょうか。交通費はもちろんのこと、ホットラインの相談者、トレーニングの講師、会計等を有償にしていくことが、女性の活動を過小評価する流れに抗し、「100年ビジョン」をふまえた運営への一歩になると思います。

## 課題2を踏まえての提案：分散型のネットワーク組織へ

現在は運営委員に重い活動の負担や責任がかかっています。私たちが何度か参加した総会に向けたミーティングは「何とかして総会までに作業を進めなければ……」という重苦しい雰囲気にも包まれていました。そこで私たちは、運営委員会・代表制を止めるか役割を見直して、もう少し権限が分散した組織にできないだろうか、と考えました。

具体的には各サークルに目的とサークル内役割を定めて意思決定の単位とし、各サークルから1～2名が集まってコーディネートサークルを作る組織形態にすることを提案します。(このような形態をソシオクラシーといいます)



## 課題3. 持続可能な活動を支える会計・財務

私たちは、今後ACW2が持続可能な活動を進めて行くためには、安定した収入の確保が至急な課題であると考えました。そのために、まずはこれまでのACW2の会計と財政の状況をまとめ、確認してみました。私たちが確認した課題は以下の通りです。まず、収入面からみま

すと、会費の収入が安定してないことがあります。最後のページに掲載されている年間ACW2の収入を表すグラフをみますと、創立当初からACW2の収入は一定の安定した傾向を見ることができず、急に増えたり、急に下がったりしていることが分かります。これに影響をあたえているのは、寄付金以外の安定した収入源がない(事業、会費、助成金など)ことです。とりわけ、近年高齢化や不安定雇用に就いている会員が増えてきていることもあり、会費の規模がますます縮小されていることも深刻な課題になってきています。

さらに、何より根本的な問題として、ACW2の予算の規模が平均300万以下という小さいあることも深刻な問題であります。この水準は、1ヶ月約25万円の規模で、団体の事業の水準ではなく、1人の労働者が時給1500円で8時間働く際の給料の水準だと言えるでしょう。とりわけ、米国のワーカーセンターや、韓国のKWVAに比べて、財政規模が一ケタ少ないという水準です。

こうした小さい規模の予算を念頭しながら、支出面での課題を考えたいのです。最後のページの年平均支出の図からも分かるように、ACW2の財政は、ACW2活動の3つの柱(相談活動・エンパワー活動・権利擁護活動)のうち、相談活動といった通信料に3割の予算が使われています。そして、4割が維持費に使われています。もともと収入の規模の小さいのに、そのほとんどが事務室の維持など、活動を維持するための最低水準の支出を賄うのに使われていると言えます。こういった財政的な限界に縛られている状況では、エンパワー活動、権利擁護活動に十分な予算を割けておらず、さらに、コロナ禍の女性労働問題といった緊急な 이슈に直ちに取り組むことができず、また、全国各地から若い世代から中高年の世代までを呼びかける多様な活動が困難であると考えました。

### 課題3を踏まえての提案:予算の確保・人件費の確保

上記の課題を踏まえ、私たちは以下のことを提案します。

第1に、活動のための予算を確保していくことです。特に、会費には限界があるので、寄付金を確保する多様な活動を積極的に、また、直ちに取り組むことを提案します。その例として、マンスリーサ・ポーター、ファンドレイジング・キャンペーン、オークション、創立記念



パーティーなどがあると思います。また、相談員を仕事にしている人からは、相談員トレーニングの価格を上げるなども考えられます。

そして、厳しい財政状況ではありますが、課題2で指摘されたように、今後の持続的な活動を進めて行くためには、人件費もきちんと予算に計上すべきだと考えました。ACW2の基調は活動にかかわる人の生活が少しでも支えられるようにしていくことを、私たちは提案します。

#### **課題4. 多様な人々の参加のために**

ACW2における活動の中で、インターセクショナリティ（活動経験、世代、階層、セクシュアリティ等のカテゴリーの交差性）の問題から、感情が刺激され、活動への参加がしにくくなってしまおうとの声があります。

豊富な活動経験を持っている側も、疲弊しています（特に無償労働をしていることが大きいと私たちは感じます）。その不満が、さまざまな感情を受けとめたり耳を傾ける余裕をなくし、結果として批判されたように感じてしまう、と思います。

多様な女性がいかにつながれるか、分断に橋を架けられるかがACW2のテーマの一つです。多様性と出会う際には、葛藤と対立が起きるのは当然と捉え、葛藤を安全に出して話し合える場づくりをさらにすすめることが必要です。

#### **課題4を踏まえての提案:葛藤・対立を安全に出して話せる場づくり**

葛藤、対立は多様性との出会い、関係構築のはじまり・発展へのきっかけでもあります。葛藤を安全に出して話しあうために、セルフ・ケア（職場や運動で抱えた痛みや傷つきを癒す）やロジックだけでなく感情も話すことが大切です。感情や価値観を話すことは関係構築に必要不可欠だからです。

また、葛藤、対立は多くの場合、そのカテゴリー（階層、世代、活動経験、セクシュアリティ等）におけるマジョリティ（特権集団）が自分たちの特権を無自覚に濫用した際に起きます。そのため、自分の特権に気づき、むしろそれを場に活かすことが大切です。ただ、特権を持っている人も同時にマイノリティ性を有し、それにとまなう痛みや傷を抱えています。まずはそれが十分にケアされ、癒やされることが大事です。

本当の対立構造（社会、国や企業などの、性差別的搾取構造）に向き合えない時に、自分の組織内部（攻撃しやすい相手）で対立するのではないか、その過程は以下の負のスパイラルのような形を取るのではないかと私たちは考えました。それを正のスパイラルにしていくにはやはり安全に話せる場を作っていくことが大切だと思います。

**負のスパイラル：**本当の対立構造に向き合えない  
 ⇒避ける⇒不満や痛みがたまる⇒感情が刺激され、攻撃しやすくなる⇒（本当の対立構造には向き合える気がないので、）攻撃しやすい相手を探す⇒組織内部で攻撃する⇒攻撃した方もされた方も傷つく・場が安全だと思えなくなり葛藤と対立を避ける⇒不満がたまる・活動への参加をやめる・孤立する⇒本当の対立構造は維持・強化される

**正のスパイラル：**自分の抱えている問題の背後にある対立構造を自覚する⇒解決策を模索⇒より多い・多様な（同質集団だけでなく、異なる価値観や地位など）人ともつながらる必要性に直面⇒時に葛藤と対立が発生する⇒安全に話せる・向き合える場⇒（組織内外で）連携しやすくなる⇒より多くの多様な人々が参加する⇒本当の対立構造（国・会社など）に立ち向かえる

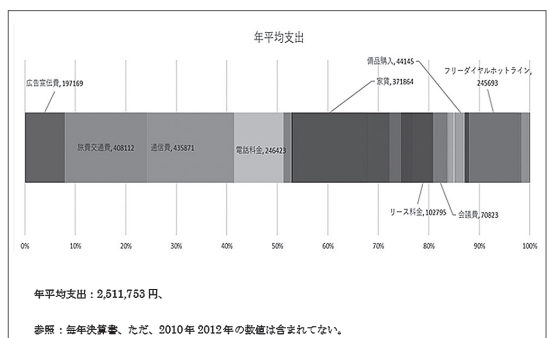
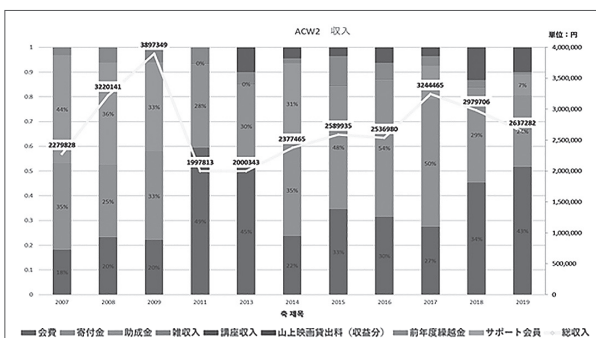
## まとめ：3つの活動の連動が必要

米国や韓国の事例では、調査や相談結果の公表はあるキャンペーンを達成する上での1つのステップとして、そのキャンペーンを段階的に拡大するべく戦略的に実施されています。

一方 ACW2 では、せっかくの相談や多くの会員の協力を得て行われている調査が活かされておらず、もったいない面があります。

3つの活動（相談・エンパワー・権利擁護）が緊密につながり、予算を含めた形で連動しているかという観点から、活動を見直すことが大切だと思います。今後最も注力すべき具体的な目標を定め、その実現に向けて、3つの活動を連動させながらキャンペーンを実施していく必要があるのではないのでしょうか。

## 会計から見た ACW2 の現状



# 働く女性の全国ホットライン2020年 報告

2020年は当初財政難により、フリーダイヤル2回線を1回線に減らすことを決め、4月～7月は1回線で実施。そのため相談件数は減。春からのコロナ禍で助成金を申請、7月末に決定され、8月より2回線に戻し継続。

- 開設 毎月0と5のつく日 平日18時～21時、土日祝日14時～17時。他に第1～4日曜日(WWVが担当)
- 担当団体(活動地域):ACW2 働く女性の全国センター事務所(東京)/WWV:ワーキング・ウィメンズ・ヴォイス(福岡)/働く女性の人権センターいこ☆る(大阪)/女のユニオンにいがた
- 相談件数 232件 開催日 102日
- 相談員 全国でボランティア約20名[8月より交通費のみ支給]
- 相談振り返りの会 7月と12月に開催

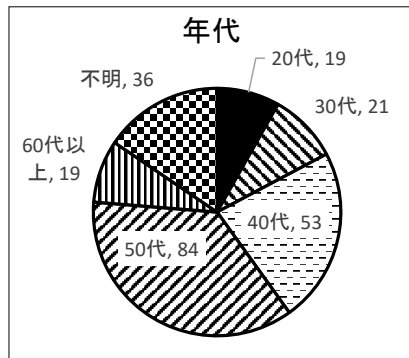
## 1 地域

北海道	1
東北	70
関東	74
北陸	3
中部	2
近畿	8
関西	24
中国	2
四国	1
九州	3
沖縄	0
不明	44
合計	232

## 2 年代

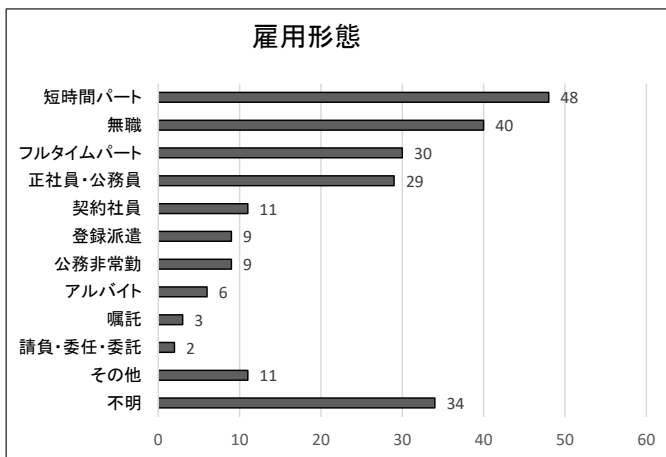
20代	19
30代	21
40代	53
50代	84
60代以上	19
不明	36
合計	232

・50代以上の割合が増



## 3 雇用形態

短時間パート	48
無職	40
フルタイムパート	30
正社員公務員	29
契約社員	11
登録派遣	9
公務非常勤	9
アルバイト	6
嘱託	3
請負・委任・委託	2
その他	11
不明	34
合計	232

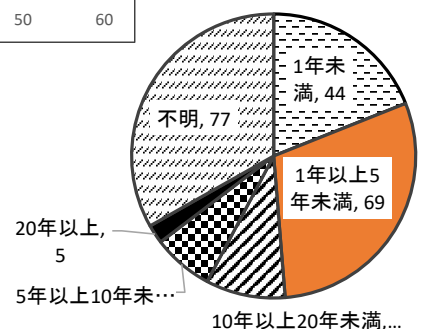


・短時間パートが最多は変わらず、次に無職の相談者が増加した。

## 4 勤続年数

1年以上5年未満	69
1年未満	44
10年以上	21
20年未満	21
5年以上	16
10年未満	16
20年以上	5
不明	77
合計	232

## 勤続年数



### 5 業種

卸売・小売	39
医療・福祉	26
サービス業	21
公務(下記以外)	21
製造業	10
金融・保険	8
飲食・宿泊	6
教育	4
鉱業・建設	1
農林・水産	0
その他	12
不明	84
合計	232

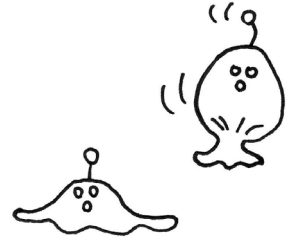
### 6 職種

接客・販売	40
事務職(一般)	40
現場(工場・現場作業, 配送, 清掃等)	30
専門・技術職	31
事務職(総合)	6
営業職	4
管理職	0
その他	9
不明	72
合計	232

職種その他: かけもち雇用, 障がい者就労支援施設2, 障がい者雇用3

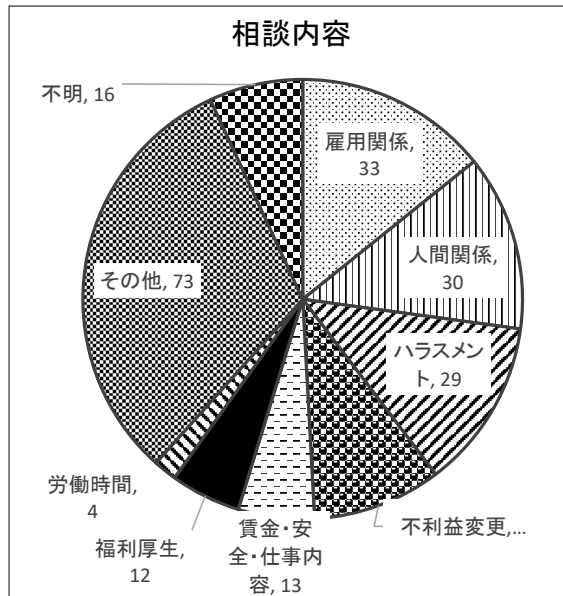
### 7 どこで知ったか

インターネット	67
知人	5
不明ほか	160
合計	232



### 8 相談内容

相談内容	小計	総計	
雇用関係	雇用不安	16	33
	解雇・雇い止め	7	
	その他雇用関係	6	
	退職勧奨	2	
	雇用保険	2	
人間関係	その他人間関係	30	30
	いじめその他	8	29
ハラスメント	暴言	7	
	セクハラ	6	
	仕事過重	4	
	仕事干し	3	
	無視	1	
不利益変更	時間・休日の変更	7	22
	職務の変更	6	
	その他不利益変更	5	
	雇用形態の変更	3	
	減給	1	
賃金・安全・仕事内容	仕事内容	6	13
	賃金格差	3	
	労災・安全衛生	3	
	低賃金	1	
	労働時間	4	

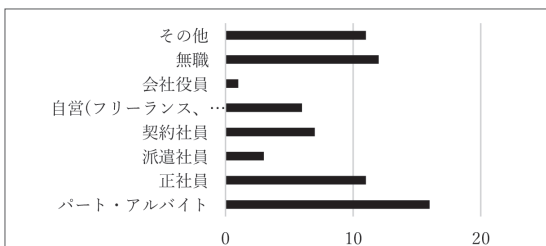


・例年は人間関係あるいはハラスメントの相談が最多であったが、2020は雇用関係が1位で、とくに雇用不安が増加

### 【コロナ禍での相談例】

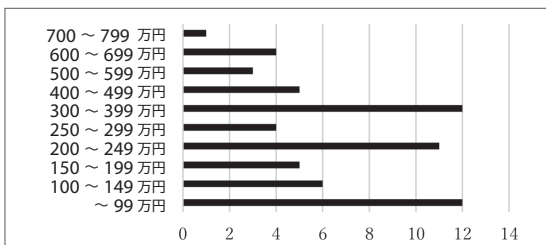
- ・コロナ自粛で人と会えず、体調も悪くつらい。人と話したい。失業中で一人暮らし。
- ・雇止めが続き、働くのがこわい。ひきこもり気味だ。
- ・短時間パート。収入が少なく転職したいが、コロナ禍で仕事があるか不安。
- ・業務縮小と言われ退職したが、新たに社員募集していたのを知りショック。
- ・コロナで面接できないという事業所が多く、転職できない。
- ・コロナで交通機関が減便。勤務時間変更しないと続かない。パートの人間関係も心配。
- ・コロナでパートの勤務時間を減らされた。6割補償は受けたが、生活しんどい。
- ・幼稚園でフルパート。休めない。正社員並みに働けと言われ、しんどい。
- ・在宅ワークになったが仕事を振ってもらえない。退職に追い込まれるのではないかと不安。
- ・コールセンターに入ったが仕事を教えてくれず、研修もない。電話対応が不安。

## 1. 雇用形態



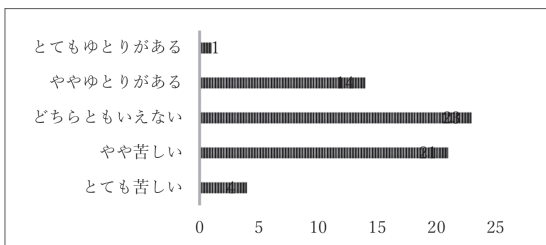
非正社員 29 人／正社員 11 人／無職 12 人  
 自営・業務委託 6 人／その他(非正規公務員 2 人／NPO1 人／再雇用 1 人／指定管理 1 人／特別職公務員 1 人／嘱託 1 人／その他不明 2)  
 パート・アルバイトが 16 人で一番多い

## 2. 会員の年収



99万円以下 12 人  
 300～399万円 12 人  
 200～249万円 11 人の順で  
 300万円未満の計 38 人で半数以上

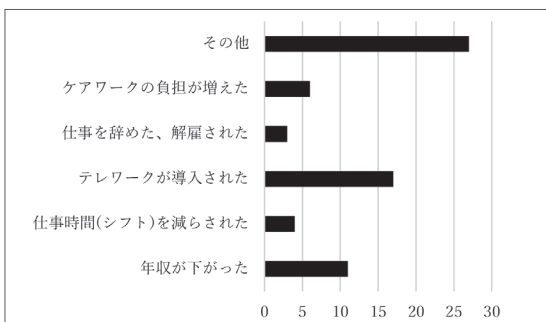
## 3. 生活実感



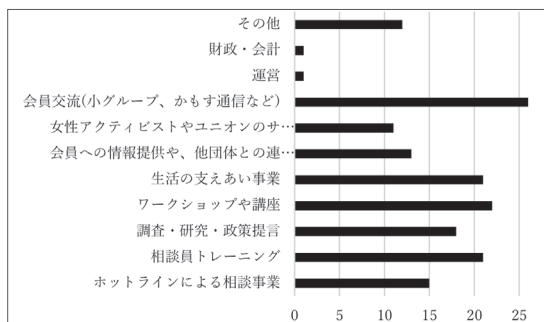
生活が苦しい 25 人  
 (やや苦しい 21 とても苦しい 4)



## 4. COVID-19の影響であなたのはたらき方は変わりましたか?



## 5. やりたいこと参加したいこと



Q6～Q11 を含めた全ての回答は、ACW2 のホームページに掲載の「第 15 回はたらく女性の  
 全国センター (ACW2) 定期大会資料」 <http://wwt.acw2.org/?p=5318> から見れます。

佐崎和子

私が ACW2 に参加したのは、福岡のワーキング・ウィメンズ・ヴォイスの活動をしていたころ、伊藤みどりさんから、はたらく女性の日米労働者教育ワークショップに声をかけていただいたのがきっかけでした。

労働者教育の内容はすごく面白いと思っていて、ACW2 のような全国組織の重要性を感じていました。労働団体が東京中心になりがちなところをはたらく女性の全国センターは、当初から全国の委員がやるんだというポリシーでした。

私は当初、教育ワークショップなどのためにしょっちゅう東京へ行き、あのころは新しい女性労働運動の風を浴びるような感覚があったと思います。それを持ち帰り、福岡でも新しい活動を始めたり。福岡の活動は元々あったんですけど、はたらく女性のホットラインを ACW2 がやれば、すぐ福岡でも取り組んでスタートしました。いまも福岡では、はたらく女性のホットラインの日曜日を担当してやっています。

ミジンさんと小谷さんの発表を聞いて、すごくいい内容と思ったとともに、何をやるべきかが見えてきたように思います。実は私は 70 歳で、今も労働相談の仕事をやっています。

本当に重要だと思うんだったら、やっぱり若い人たちに引き続いていていただかないとやれないというのが本当の気持ちです。

もちろん今までやってきた私たちも、例えば金銭面でやれるところはやって、サポートしていかなければならないという思いもあります。この運動を本当に大事だと思うなら、やはり次の方たちに引き受けていただきたいというのが、私の中で一番今後に期待するものです。

以前は東京に行くことも多かったですが、オンライン化が進んでスカイプや Zoom で参加できるようになりました。オンライン化は、全国から参加できるための足がかりになったと思います。多くの人は何らかの形で関わってくれることが、この会が存続していくにはとても重要だと思っています。

初期のころのかもす通信は、ずっと私が作ってきたこともあって、地方だからできないってことはないと思います。地方でもできることがあるし、様々な関わり方ができるので、ぜひこのバトンを受けていただきたいというのが、私が一番みなさんにお伝えしたかったことです。

おーやん

私が結婚したのはちょうど35年前です。こんなことを話したら怒られそうですが、そのとき、結婚して専業主婦になって、働くつもりが実はありませんでした。

でも無職の旦那と結婚したもので、働かざるを得ない状況に追い込まれました。でも、内職をすれば、子供がいたらだめと言われ、いざパートに出れば、半年で「子どもが病気になる人は雇えない」と言われ。主人の実家を手伝ってはいましたがそれだけでは足りず、幼児・小学生のための塾の助手などをやっていました。きちんと就職したのは、結婚から5年ぐらい経ったころの、生命保険の営業でした。

その後、主人が居酒屋を始めるというので、そこを辞め、でも居酒屋の収入だけでは不安なので、一部上場企業のパートに入りました。

今だったら大問題でしょうけど、そこは2か月更新のパートでした。約8年間、更新を続けていましたが、会社からいきなり、「パートを雇わないからもう次の更新はない」と言われてしまいました。「なんで私が辞めさせられなくちゃいけないの？ おかしい！」と思ったのが、疑問を持つようになったきっかけでした。当時は、労働組合のこともよくわからず、そのまま辞めました。その後、正社員で雇われた会社では、ガンになって1年後にリストラに遭いました。次の就職先では8年ぐらい勤めましたが、親会社で大きな事件があり辞めることにしました。今はその会社はありません。

どんなに頑張っても、結局、会社の力に翻弄されてしまうのをつくづく感じ、「どうしたらいいのだろう」と探している時にネットで出会ったのがACW2です。私はいま、色々なところで活動していますが、結局戻ってくるのはACW2です。なぜACW2かということ、自分を癒してくれる所は、やっぱりここしかないと思うからです。

例えば、世の中にとって必要な活動だと思っても、なかなか自分を癒すことには繋がらないわけです。そこで疲弊したり、衝突したり、大変なことがあったりしても、それをケアすることはできません。ACW2に戻ってくると、ここにいてみんなで話したり、かもしたりするのは自分にとって大切な時間だになって、すごく思っています。だからACW2に戻ってきますし、ACW2をなくしたくないっていうのが、いまの一番大きな思いです。すごく大変だけれども、私に関わることで、少しでもなくならないように、続けていける方向に行ったらいいな。そのためには、ACW2に参加しているみなさんのお力もかりたいし、みなさんの協力が大事だと思っています。

### アッコ

私は、5年くらい前に運営委員をやっていたお友達がいて、大会に誘われたことがきっかけで ACW2 に参加するようになりました。初めて参加したときに ACW2 はすごく雰囲気が穏やかでいいなと感じました。それからかも講座などにも参加するようになって、今は「性と自分を話す会」という小グループで活動しています。ACW2 に入ったときは、まさかセクシュアリティの話をするようになって思っていなくて、労働相談とかやってるグループなのかなくらいで全然知らないで入ったんですけど、参加して自分の話をちょっとずつするようになって、同じようなことを話したいって思ってる人たちと繋がれてすごく嬉しかったんですね。

私は、定期大会がいつもすごく楽しみでした。外にでかけたりとか、出かけてもたくさんの人と話すことがあまりないので、先ほど小谷さんの発表を聞いて、家で安心してウェブ会議できるのもやっぱり特権の一つだなと思いました。私の家はそんなに広いわけじゃなく、すぐ近くに親がいて、外ならそこにいる人しか聞いていないからいいんですけど、家だと思ったより正直に話せなくて。外で集まれる場所があることが私にとってはすごいパワーがもらえる。今の状態がずっと続くと本当つらいんですよね。今も近くに親がいるんで、話すときに心理的に圧迫されるような感じがすごくあるんですよね。家でも正直に話すことができる人もいると思うんですけど、うちはそうじゃないので、外に行って空気を共有するっていうのがしたくてしょうがないんですよね。去年、大会に参加してよかったなと思って、それが早くできるようになることを願うばかりです。ACW2 にはそういう空気を共有できる場所作り続けてほしい。私も協力したいと思います。

会員の人で、もっと参加したいけど体力的に余裕がないみたいな声がすごいいっぱいあると聞いて、私もそうだなと思いました。ボランティアで市民活動してたことあるんですけど、毎日賃金稼ぐ労働だけでもヘロヘロなのに、ボランティアでイベントやったり助成金の書類作ったりして、そのグループが体育会系だったので余計しんどかったですね。

ACW2 に対して、自分も何かずっと関わりたいという気持ちはすごいあります。ただ自分はやりすぎちゃったり、ケアをおろそかにすることがあるのでまだ考えてるところです。そういうことも話す場所があって、お互い交換できるといいんじゃないかなと思ってます。

### おざー

ACW2に私が最初に行ったのは、Aさんに連れられてでした。Aさんは、私が居ついてしまったから、また行かない？って言ったらつまないからって言われて、ちょっとショックだったんですが、私は全然つまなくななくて、とにかく居心地がいい。

なぜかという、話すときに、実際に人にはいろいろな権力関係があって、でこぼこした関係なのに、とにかくあの場にいれば、平場を保つ工夫をたくさんしていて、緊張している人の緊張をほぐすとか、そういう技法も持ってて、だから安心できる。具合が悪くても参加できるみたいなのが気に入りました。

相談員トレーニングも受けたけど、労働法がどんどん変わるので、そこが追いつかないという個人的な悩みがあるんですけど、でも、ACW2は労働問題について、雇う側を憎むようなやり方ではなくて、とにかく理詰めでやるとか、あるいは働く側の相互の助け合いのことについての発言があるとか、そういうのがいいなと思いました。

やっぱりある年代、ある境遇の人にとっては、似たような人たちが繋がるのが非常に難しい。特に地方とか地域でしか動けない人にとってはとても難しいので、この場が介護労働、ケア労働を含め、いろいろな人が繋がろうと思えば繋がり、いま繋がりにくいと思えば繋がらなくて済むような場にするのができたらいいと思っています。

個人的には春から3月か4月ぐらいから、これは、正式なご依頼があったというよりは伊藤さんからなんとなく言われたんだけど、女性学の話をしてって言われたので、どうしていまどきジェンダーでもなく、クィアスタディーズでもなく、女性学なのかとかいうそこから考え始めてだんだん案を練っているところです。私いま先生をクビになりそうになっているので、2月の成績付け以外のところについてはちゃんとやれますので、女性学のお話をする事で、ACW2にちょっと貢献できたらいいなって思っているところです。



## 定期大会の感想。。

---

さときん

ACW2の大会。。ん～。。ほとんど覚えていない。。すでに総会が終わり、オープンミーティングも4月にあり参加したけど、その時のことすらかなり忘れちゃってるなあ。。そんなこと言わないで、がんばって思い出してよ！と自分を叱咤激励してなんとか書いてみたかったのですが、そもそも自分は超ネガチブな性分なので、思いたそうとすると今年の定期大会のみならず、過去、自分が参加した大会であったいろいろ、特に大変だったことを思い出してしまい、そこから派生して、自分が昔関わっていた別団体でのいやな経験まで頭をぐるぐるして、ちょっと大変になってしまいました。

あと、文章を書くのが苦手です。

定期大会の感想。

多くの会員の人たちがACW2がとても大事だと思っているということをひしひしと感じました。自分もACW2に思い入れがかなりあるなあと再確認しました。あとは、ん～。。大変だよなあ。。難しいよなあ。。としか言えない自分がいます。

ソシオクラシーが出てきましたが、ちょっとどうなんだろうと思いました。あ。韓国も前は寄付文化がなかったけど、寄付するようになったというようなことを金さんが言っていたと思うのですが、なぜそうなったかを聞きたかったです。

そういえば、研究者ということで小谷さんと金さんにいろいろ分析してもらったのには(それもかなりの駆け足で)かなり違和感がありました。二人を批判しているわけではなく、二人も荷が重かったのではないかと思います。どういう違和感かということをちゃんと説明すべきだと思いますが、ちょっと今回は難しいので、言葉足らずで申し訳ないです。

今回の定期大会に限ったことではないですが、ACW2の話し合いの規則的にちょっとどうなのかという言動なり、行動なりがあった場合、誰が、いつ、どういう権限で介入すべきか、すべきでないのかということを考えました。また、どこからどこまでがアウトなのかも、人によって違うんだろうなあとか。。

最初はどうなることかと思いましたが、とりあえず、思い出した分を断片的に書きました。  
終わり

2021年3月20日

---

# 「官製ワーキングプアの女性たち コロナ後のリアル」緊急集会報告

下野裕子

2020年9月に出版された岩波ブックレット『官製ワーキングプアの女性たち』の関係者が中心になって企画したシンポジウムで、リアルとYouTubeによるオンライン配信の2本立てで、1200人余りが参加しました。

第1部は竹信三恵子さんと上林陽治さんの基調講演で、専門家からの問題提起がありました。コロナ禍によるエッセンシャルワーカーとしての使命感・義務感の増大に対して、2020年度から始まった会計年度任用職員としての1年での雇止めの合法化によるダブルショック。非正規公務が女性に依存している実態(4人に1人以上が女性)も指摘されました。会計年度任用職員制度は単年度雇用を法定化した制度で、単年度任用が厳格化されたことで、現場の働き手には不安が広がり、より声を上げにくい状況が広がってきたことも見えてきました。

第2部では各地の自治体などで住民サービスを支える、「非正規公務員」として働く職員が現状を報告。婦人相談員、女性関連施設職員(キャリアコンサルタント)、ハローワーク相談員、学童保育指導員、小学校司書、社会教育(公民館)・住民の立場からと全国の様々な現場から深刻な現状の訴えが集まりました。公務現場の仕事は、一定の経験や知識を必要とするものも多く、対人援助職関係の資格が国の制度として新たに作られてきたものの、資格が安定した職をもたらすものとはなっていない現状も共有されました。

第3部では全国シェルターネット共同代表、介護・保育ユニオン共同代表、NPO法人参画プラネット代表、元メトロコマースの方々からの連帯メッセージ。現状への危機感を共有しました。

直接雇用の非正規公務以外の民間委託も広がっており、民間委託された公務現場でもたくさんの方の非正規の働き手が働いていることも確認されました。

集会に合わせて集まった多くのメッセージを伝え、この先の動きにもつなげていくために、Non Regular Worker/Women United(非正規労働者/女性連帯)の頭文字を取り、「NRWWU」と名付けたホームページを開設し、当事者や支援者からの熱い応援メッセージが寄せられています(<https://nrwwu.com/>)。

今後は、女性の働き手として広がってきたこの非正規公務問題を解決していくため、広く公務非正規領域の仕事に従事する女性達、働き手また、この問題に関心を寄せる個人とともに問題解決に向けた調査、提言を行う団体「公務非正規女性全国ネットワーク(通称:はむねっと)」を立ち上げて、交流会や学習会などの企画を開催しながら活動を継続していきます。手始めに、5月からウェブ調査を実施予定です(詳細はHPをご覧ください)。ACW2の皆さん、関係者のみなさま、是非ご協力よろしくお願いします。





小学校2年生のとき、母が統合失調症を発症。私は生き延びるために、「一万年の子ども」になった——。この連載では、母の症状が落ち着き、ナガノさんが「一万年生きた子ども」の後遺症と向き合ってきた中学生～高校生、成人後を描きます。

お久しぶりです。ナガノハルです。この度、現代書館で連載が始まりました。東大の REDDY というサイトで書いていた続きになります。すべて無料で読めますので、ぜひ一度ご覧ください。よろしくお祈いします。

## 現代書館の NOTE にて絶賛連載中！

「現代書館、一万年生きた子ども」で検索するとトップに出きます。

<https://note.com/gendaishokan/n/n4cd4ad7031ca>

## 編集後記

■ 定期大会に参加した会員の皆さんが ACW2 の存在を大切にしていることを感じ嬉しかったです。大会で 15 年を振り返り、その時々の問題と一緒に向き合った人たちの顔も思いおこし感謝の気持ちで一杯です。今、私は人生の後半となり「歴史のごみ箱に捨てられた事の中で伝えたいこと」を私の言葉で「賃金と社会保障」という冊子に連載してます。抽象的と言われた 100 年ビジョンで定義した「はたらく」がコロナ禍で大きな意味を持ち始めたと感じています。そこに繋がる発信をしていきたいと感じています。(み)

■ オンラインで会議をしても関係は深まらないし、誰かのために一緒に何かをしたいという気持ちもわき起こらないし、何も始まらないかもと私は思い、かもす通信に会員交流ページを作ろうと思い立ちました。働くこと、生きることについてあなたの文章や作品を載せてみませんか。働くについてこう考えています。こんなふうに働いてきました。本や映画を見てこんなことを思いました等々、書いてみたい方は [office@acw2.org](mailto:office@acw2.org) までご連絡ください。(さ)

**はたらく女性の全国ホットライン 0120-787-956**

毎月 **5・10・15・20・25・30日** と **第2～第4日曜日**

平日 | 18:00～21:00 土日祝 | 14:00～17:00

会員のあなたもぜひご利用ください。毎月**5日**は**セクハラ集中相談日**

住所 | 〒110-0015 東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ビル3階

TEL | 03-6803-0796 FAX | 03-6803-0726 e-mail | [office@acw2.org](mailto:office@acw2.org)

HP | <http://www.acw2.org/> Twitter | <https://twitter.com/acw2org>

正会員年会費 | (性自認女性) 1口 3,000円 オプション5,000円 または 10,000円  
生活困窮者2,000円

通信/サポート会員 | (男性も歓迎) 1口3,000円(何口でも可)

郵便振込 | 00130-1-669637

銀行口座 | 三井住友銀行 渋谷支店 普通8658522



か・も・し・中

本文600文字程度を目安に、「かもす通信おたより係」あてにメールにてお送りください。掲載までに時間がかかる場合があります。また、必ずしも掲載をお約束するものではありません。※編集メンバーも募集中。お気軽にお問合せください。

感想など  
会員のおたよりを  
お待ちしております